

Syllabus Id	syl.-062513
Subject Id	sub-062007650
作成年月日	06.01.05
授業科目名	経済学 ECONOMICS
担当教員名	槇満信
対象クラス	全学科・5年
単位数	2履修単位
必修/選択	選択
開講時期	通年
授業区分	人文・社会科学・語学等
授業形態	講義
実施場所	

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

経済社会の現実是非常に込み入っており、新聞等では経済政策を巡るさまざまな議論が毎日のように繰り返されている。私たちは一市民として、どういう経済政策がどういう意味を持つのか少しでも知っていたほうがよいであろう。この科目では、経済学の基本的な考え方について説くことにより、そうした経済政策論議を理解するための道具を手にするを目指す。

授業ではおもに、現実と深く関わっているマクロ経済理論と産業組織とについて、その基本的な考え方を述べる。どちらに関しても途中(1学期テスト)で一度理解度を見たいので、それぞれを両期に互って均して扱うつもりである。なお、受講生が経済専攻でないことをよく踏まえ、できるだけ噛み砕いた説明を行うよう努める所存。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

学習・教育目標	Weight	目標	
		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成	

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

マクロ経済理論では、財市場、資産市場、為替市場の相互作用により国民所得がどう決まるのかについて理解することを目指す。産業組織では、生産量決定型寡占、価格決定型寡占、競合可能な市場のそれぞれにおいていかなる経済厚生がもたらされるのかについて理解することを目指す。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	経済学への誘ない(1)	経済学の世界(1)	
第2回	経済学への誘ない(2)	経済学の世界(2)	
第3回	経済学への誘ない(3)	一様でない経済思想(1)	
第4回	経済学への誘ない(4)	一様でない経済思想(2)	
第5回	経済学への誘ない(5)	経済学を含んだ社会科学の特質(1)	
第6回	経済学への誘ない(6)	経済学を含んだ社会科学の特質(2)	
第7回	マクロ経済理論(1)	国民所得統計(1)	
第8回	マクロ経済理論(2)	国民所得統計(2)	
第9回	マクロ経済理論(3)	GDPの決定(1)	
第10回	マクロ経済理論(4)	GDPの決定(2)	

第11回	産業組織(1)	産業組織論の基本概念(1)	
第12回	産業組織(2)	産業組織論の基本概念(2)	
第13回	産業組織(3)	独占による経済厚生への損失(1)	
第14回	産業組織(4)	独占による経済厚生への損失(2)	
第15回	1学期テスト		×
第16回	マクロ経済理論(5)	資産市場(1)	
第17回	マクロ経済理論(6)	資産市場(2)	
第18回	マクロ経済理論(7)	IS/LMモデル(1)	
第19回	マクロ経済理論(8)	IS/LMモデル(2)	
第20回	マクロ経済理論(9)	オープン・エコノミーのマクロ経済学(1)	
第21回	マクロ経済理論(10)	オープン・エコノミーのマクロ経済学(2)	
第22回	マクロ経済理論のお お祝い		
第23回	産業組織(5)	寡占市場の均衡・経済厚生・利益率(1)	
第24回	産業組織(6)	寡占市場の均衡・経済厚生・利益率(2)	
第25回	産業組織(7)	価格決定のベルトラン・モデルと参入阻止(1)	
第26回	産業組織(8)	価格決定のベルトラン・モデルと参入阻止(2)	
第27回	産業組織(9)	コンテストナブル・マーケットと参入障壁(1)	
第28回	産業組織(10)	コンテストナブル・マーケットと参入障壁(2)	
第29回	産業組織のお祝い		
第30回	2学期テスト		×

課題

オフィス・アワー: 授業のある日であれば、非常勤講師室にて質問を受け付ける。

評価方法と基準

評価方法:

テストにより評価する。

評価基準:

1学期テスト、2学期テストにそれぞれ50パーセントの重みを付ける。

教科書等	賀川昭夫『現代経済学』(新訂、放送大学教育振興会、2005年)をテキスト・ブックとする。参考書については授業中に折に触れて紹介する。また、刷り物を配ることも考えている。
先修科目	
関連サイトのURL	
授業アンケートへの対応	
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。